

刑 法 犯 の 概 況

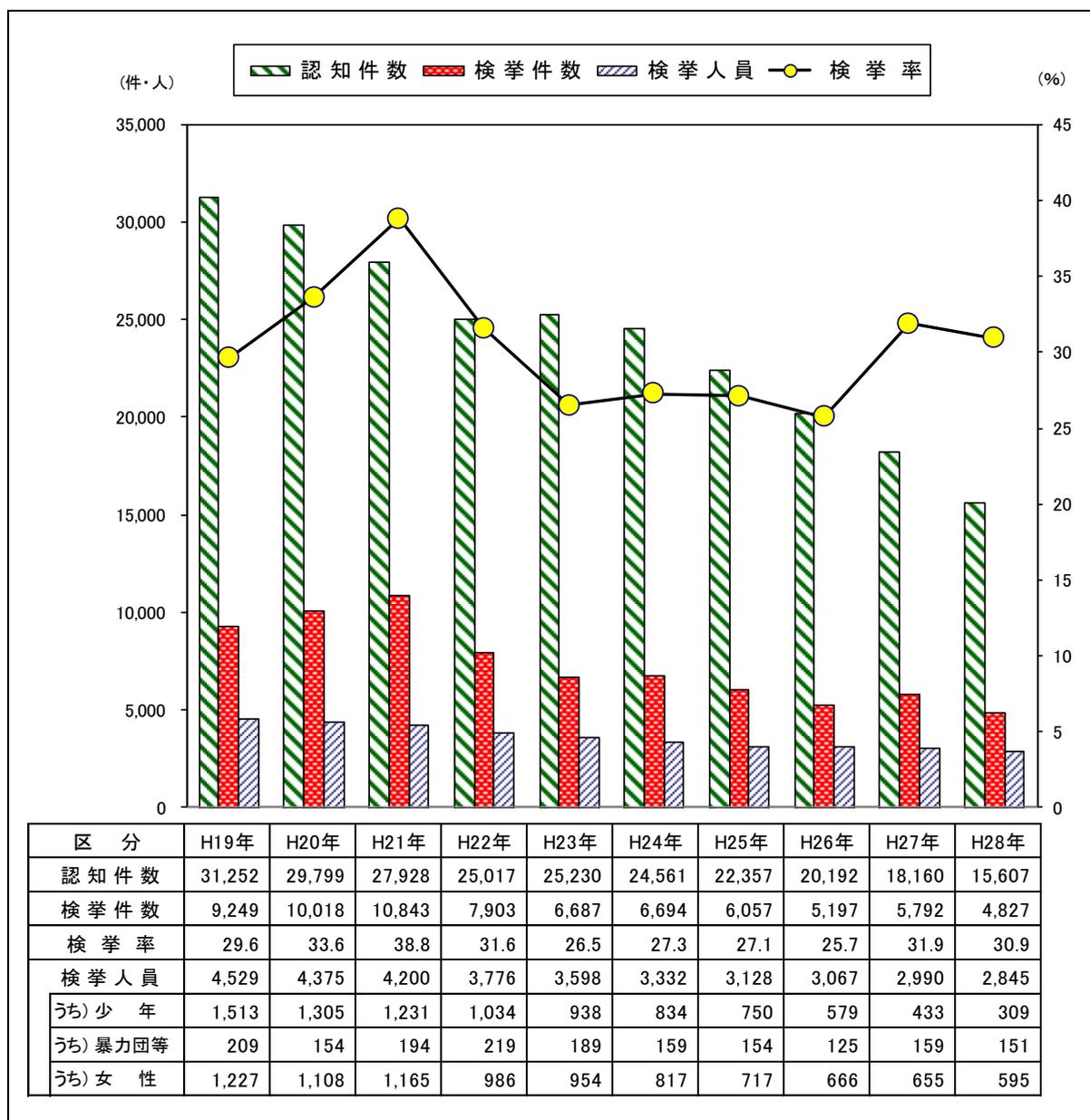
1 刑法犯

● 刑法犯は平成の最少を更新

平成28年中の岐阜県下の刑法犯は、認知件数が15,607件、検挙件数が4,827件、検挙人員が2,845人、検挙率が30.9%でした。前年と比較すると、認知件数は2,553件（-14.1%）減少、検挙件数は965件（-16.7%）減少、検挙人員は145人（-4.8%）減少、検挙率は1.0ポイント下降となりました。

刑法犯の認知件数は2年連続で2万件を割り、平成の最少を更新しました。

図－1 刑法犯 認知・検挙状況 年次推移

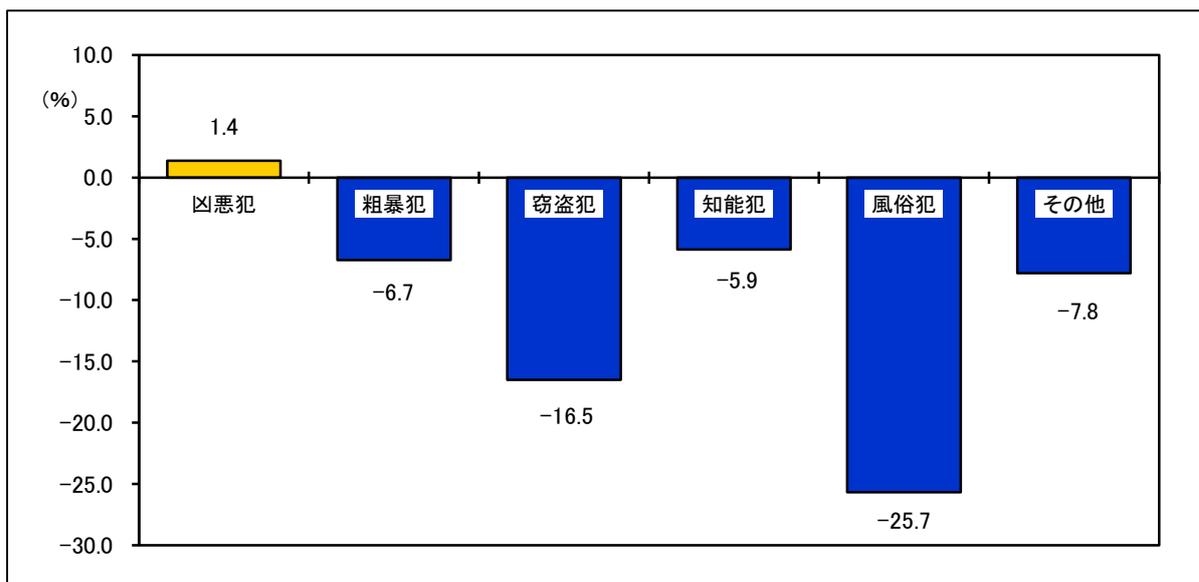


刑法犯の包括罪種別認知件数は、凶悪犯が74件、粗暴犯が914件、窃盗犯が10,971件、知能犯が723件、風俗犯が110件、その他の刑法犯が2,815件でした。前年と比較すると、凶悪犯は微増となりましたが、粗暴犯、窃盗犯、知能犯、風俗犯、その他の刑法犯はそれぞれ減少しました。

表－1 刑法犯 包括罪種別 認知状況

包括罪種 区分	総数	凶悪犯	粗暴犯	窃盗犯	知能犯	風俗犯	その他の 刑法犯	
平成28年	15,607	74	914	10,971	723	110	2,815	
構成比	100.0	0.5	5.9	70.3	4.6	0.7	18.0	
平成27年	18,160	73	980	13,138	768	148	3,053	
構成比	100.0	0.4	5.4	72.3	4.2	0.8	16.8	
増減	件数	-2,553	1	-66	-2,167	-45	-38	-238
	%	-14.1	1.4	-6.7	-16.5	-5.9	-25.7	-7.8

図－2 刑法犯 包括罪種別 認知件数 前年対比



※ 包括罪種とは、刑法犯のうち被害法益、犯罪態様等の観点から類似性の強い罪種を包括して6種に分類したものをいいます。

- ・凶悪犯 ————— 殺人、強盗、放火、強姦
- ・粗暴犯 ————— 凶器準備集合、暴行、傷害、脅迫、恐喝
- ・窃盗犯 ————— 窃盗
- ・知能犯 ————— 詐欺、横領、偽造、汚職、あっせん利得、背任
- ・風俗犯 ————— 賭博、強制わいせつ、公然わいせつ、わいせつ物
- ・その他の刑法犯 ——— 占有離脱物横領、公務執行妨害、住居侵入、逮捕監禁、略取誘拐等、器物損壊など上記に掲げるもの以外の罪

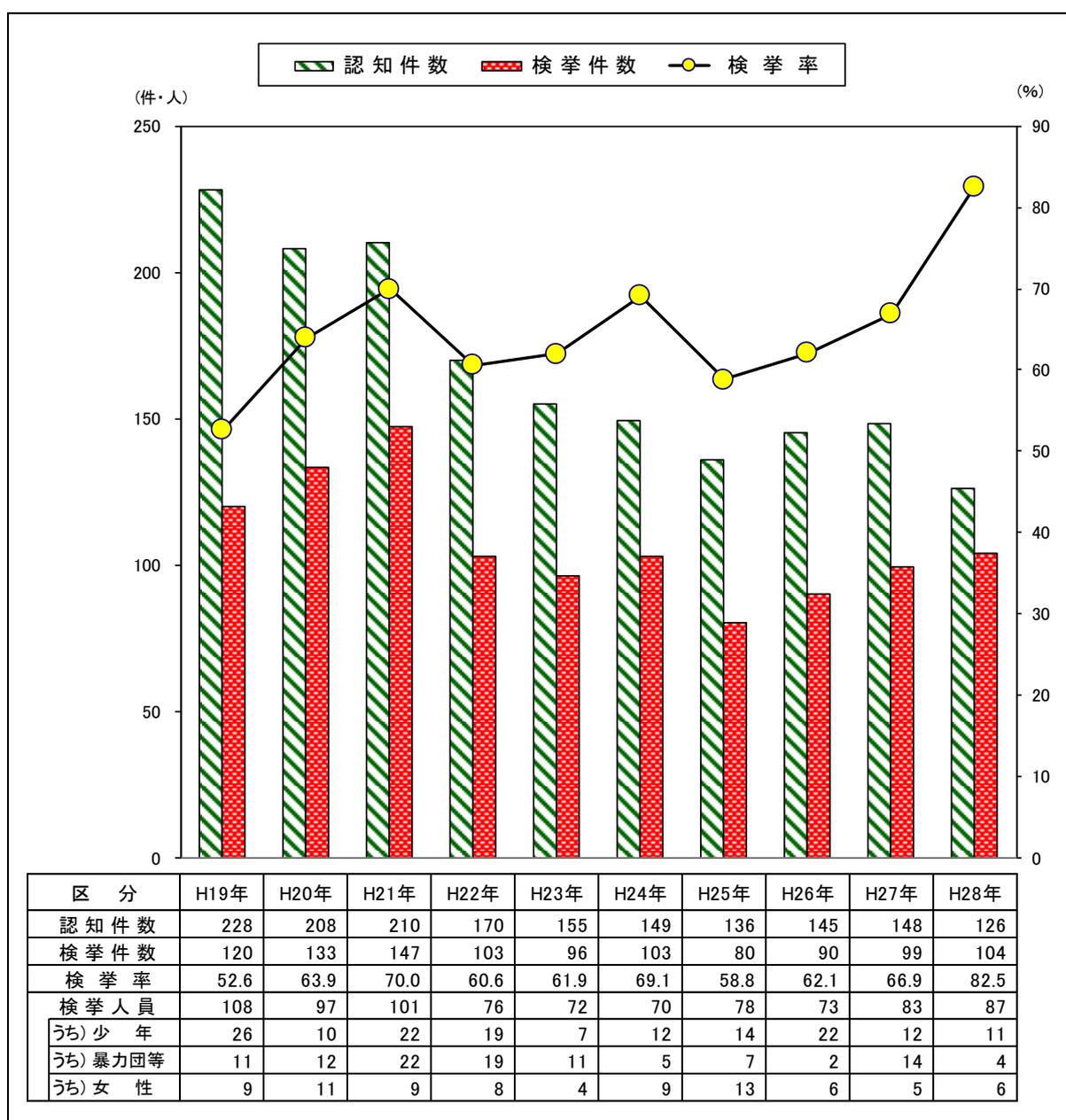
2 重要犯罪（殺人、強盗、放火、強姦、略取誘拐等、強制わいせつ）

● 重要犯罪の検挙率は82.5%

平成28年中の岐阜県下の重要犯罪は、認知件数が126件、検挙件数が104件、検挙人員が87人、検挙率が82.5%でした。前年と比較すると、認知件数は22件（-14.9%）減少、検挙件数は5件（5.1%）増加、検挙人員は4人（4.8%）増加、検挙率は15.6ポイント上昇となりました。

重要犯罪の認知件数は、2年連続の微増から再び減少に転じました。一方、検挙率は19年ぶりに80%を上回りました。

図-3 重要犯罪 認知・検挙状況 年次推移

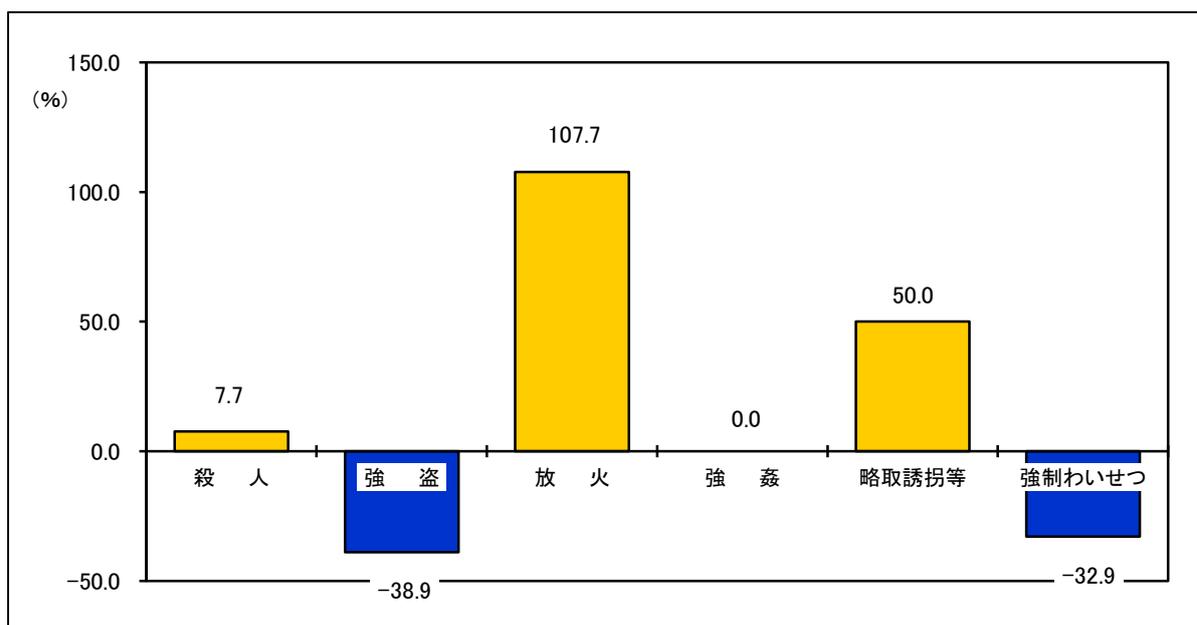


重要犯罪の罪種別認知件数は、殺人が14件、強盗が22件、放火が27件、強姦が11件、略取誘拐等が3件、強制わいせつが49件でした。前年と比較すると、放火は増加しましたが、強盗と強制わいせつはそれぞれ減少しました。

表－２ 重要犯罪 罪種別 認知状況

罪種		総数	殺人	強盗	放火	強姦	略取誘拐等	強制わいせつ
区分								
平成28年		126	14	22	27	11	3	49
平成27年		148	13	36	13	11	2	73
増減	件数	-22	1	-14	14	0	1	-24
	%	-14.9	7.7	-38.9	107.7	0.0	50.0	-32.9

図－４ 重要犯罪 罪種別 認知件数 前年対比



※ 重要犯罪とは、刑法犯のうち殺人、強盗、放火、強姦、略取誘拐等、強制わいせつの各罪種をいいます。

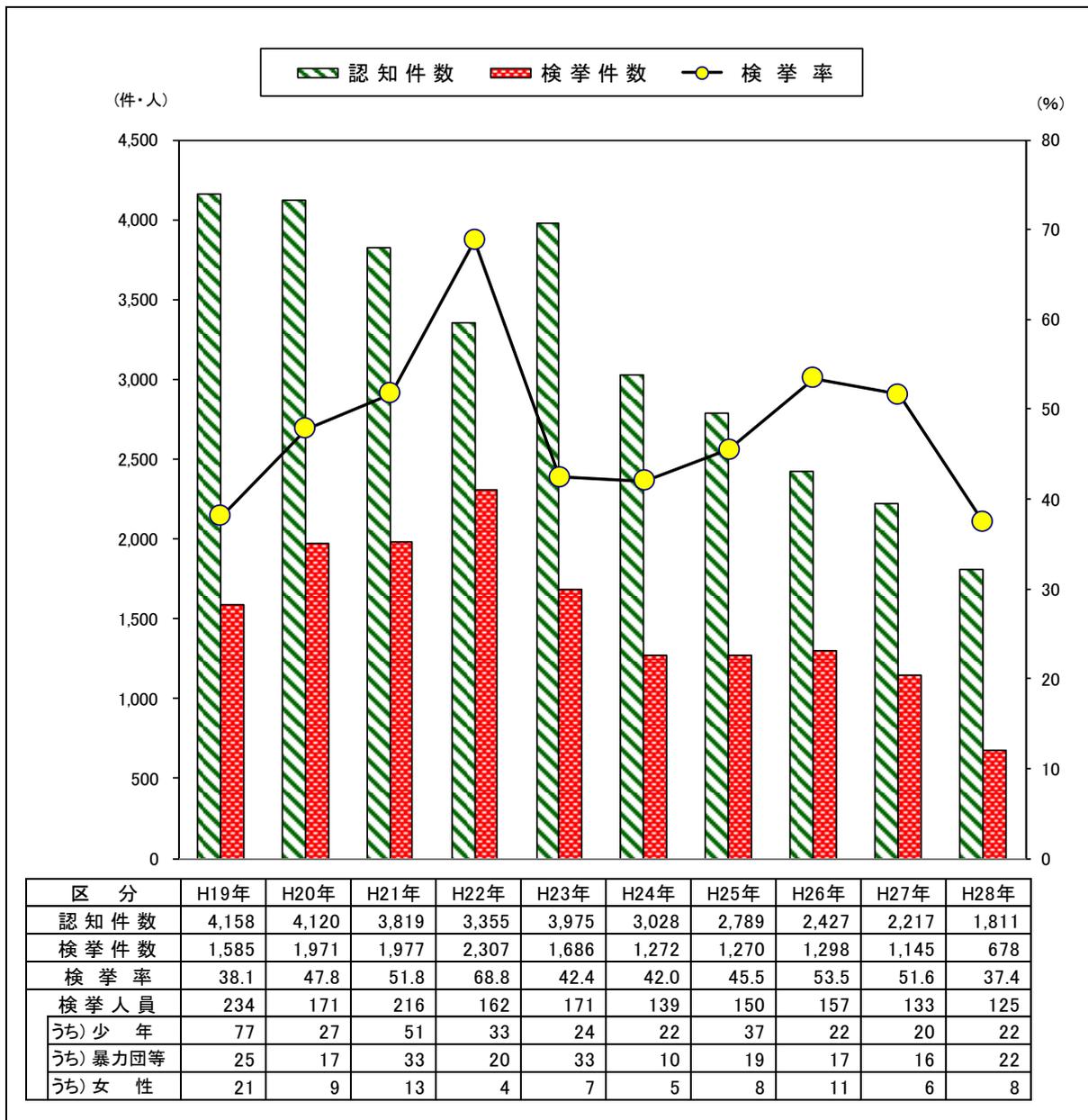
3 重要窃盗犯（侵入盗、自動車盗、ひったくり、すり）

● 重要窃盗犯は2,000件を割る

平成28年中の岐阜県下の重要窃盗犯は、認知件数が1,811件、検挙件数が678件、検挙人員が125人で、検挙率が37.4%でした。前年と比較すると、認知件数は406件（-18.3%）減少、検挙件数は467件（-40.8%）減少、検挙人員は8人（-6.0%）減少、検挙率は14.2ポイント下降となりました。

重要窃盗犯の認知件数は、統計が残る昭和50年以降で初めて2,000件を下回りました。

図-5 重要窃盗犯 認知・検挙状況 年次推移

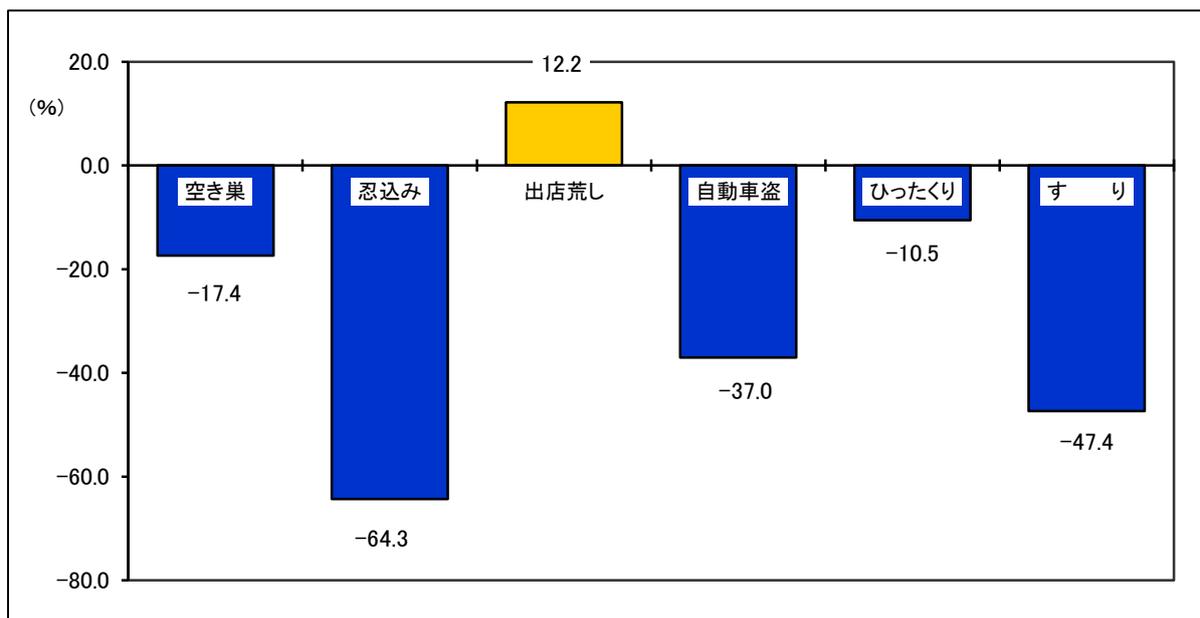


重要窃盗犯の手口別認知件数は、侵入盗が1,631件、自動車盗が153件、ひったくりが17件、すりが10件でした。前年と比較すると、侵入盗、自動車盗、ひったくり、すりがすべて減少しました。侵入盗の手口では、空き巣、忍込み、倉庫荒し、病院荒しなどがそれぞれ減少しました。

表-3 重要窃盗犯 手口別 認知状況

区分	手口	総数	侵入盗	うち)			自動車盗	ひったくり	すり
				空き巣	忍込み	出店荒し			
平成28年		1,811	1,631	679	127	230	153	17	10
平成27年		2,217	1,936	822	356	205	243	19	19
増減	件数	-406	-305	-143	-229	25	-90	-2	-9
	%	-18.3	-15.8	-17.4	-64.3	12.2	-37.0	-10.5	-47.4

図-6 重要窃盗犯 主要手口別 認知件数 前年対比



※ 重要窃盗犯とは、窃盗犯のうち侵入盗、自動車盗、ひったくり、すりの各手口をいいます。